

張愛玲文学作品における上海語研究(6)

—『傾城の恋』を中心に—(その1)

吉田陽子

『傾城の恋』¹は張愛玲(1920.9.30-1995.9.8)の1944年8月出版の『伝奇』に収録されている中編小説である。『伝奇』には10篇が収録されていて、『傾城の恋』の他に、「沉香屑:第一爐香」「沉香屑:第二爐香」「茉莉香片」「心經」「花凋」「年青的時候」「金鎖計」「封鎖」「瑠璃瓦」がある。民国35年(1946年)11月に『伝奇増訂本』²が出版され、「紅玫瑰與白玫瑰」「留情」「鴻鸞禧」「桂花蒸 阿小悲秋」「等」5篇と前書き「有幾句話同讀者說」や後書き「中國の日夜」が追加して収録されている。本稿は『伝奇増訂本』に基づいたものである。

そこで本稿は、『十八春』(『半生縁』)に続き、『傾城の恋』に使用されている上海語を紹介していく。

『傾城の恋』のあらすじを簡単に紹介すると次のようになる。

白流蘇は28才で出戻った。彼女は6、7年前に夫の暴力に耐えきれず離婚して上海実家の白公館に身を寄せた。兄達の株売買の失敗や女遊びにより家財の底が段々と見えてきた。白流蘇はその上、兄嫁の冷たい言葉に心が刺されて、実家に居辛くなり、一日も早く離れたかった。丁度その頃、異母姉妹の宝絡にお見合いの話が舞い込んできた。相手は範柳原という32才の英国育ちの華僑であり、両親が残した財産で香港とシンカポールに拠点を置き、商売している男である。上海でのお見合いの日に、宝絡は再婚の見込みのない流蘇姉を同行させた。ところが、範柳原は白流蘇との三回のダンスで、彼女に一目ぼれした。しかし、範柳原はプレボーイであり、白流蘇は彼のことを簡単に信用することができなかった。その後、親戚の子どもの船旅中の面倒を見るため、白流蘇は範柳原の居る香港に行くことにしたが、それでも二人は互いのプライドや猜疑心によってどうしても心を開けることができなかった。

1941年12月8日からの日本軍の侵攻は、英国領の香港にも容赦なくされていた。範柳原と白流蘇は死を目の当たりして、幾多の曲折を経て、とうとう意地を張るのを止めることにした。町に平静が戻った頃、二人は結婚の知らせを新聞に載せて、そして香港と上海の航路が再開されてから上海に戻った。

香港の陥落によってどれだけの人命が落とされて、またどれだけの人が苦しんでいたのであろうか。その為、白流蘇は自分が災難を免れて再婚の願いを叶えることができたのは幸運だったと考えていた。

¹『傾城之恋』は張愛玲作『伝奇』に収録されている作品である。ただし、本稿では書籍に収録された作品でも、作品は『』で表記する。

² 張愛玲著「傾城之恋」(所収『伝奇増訂本』(上海・中国図書雑誌公司出版、民国35年(1946年)11月増訂本初版)152-190頁

次は分析に使用したテキストと分析方法を説明しておく。

1. 使用テキストについて

『傾城之恋』(所収『伝奇増訂本』上海・中国図書雑誌公司出版、民国 35 年(1946 年)11 月増訂本初版)152-190 頁

2. 下記の『『傾城之恋』について』に関して

- ① 「原文」の下線部分は、『傾城之恋』に現れる上海語を取り出したものであり、「説明」は、「原文」の日本語訳や説明及び中国語共通語との類似語の表示である。
- ② 『傾城之恋』に取り上げる文章と説明部分の語彙は中国語の略字を使用する。尚、原文の会話部分は『』であるが、本稿では“”に変更した。
- ③ 参考資料について

1)ローマ字及び声調の表記法は、『エクスプレス上海語』(榎本英雄／范晓 著、白水社、1996 年 4 月 5 日第 6 刷)を参考にしたものである。例えば、

- 声調 I 声 [平声] zàn (张) 高から低点まできれ目なく下降させます。
 II 声 [陰去] zān (壮) 中高点から微上昇させます。
 III 声 [陽去] zhán (长) 低点から中高点まで上昇させます。
 IV 声 [陰入] z[^]ak (扎) 高点で短く日本語の促音のように声をつめます。
 V 声 [陽入] zhǎk (石) 低点で短く日本語の促音のように声をつめ、終了時には中点近くまで上昇させます。(『エクスプレス上海語』12、13 頁)

2)日本語訳は、『上海語常用同音字典』(宮田一郎 編著、光生館、昭和 63 年 9 月 10 日初版)等を参考したのである。

3. 連続変調について

上海語の会話は連続変調が生じるものではあるが、本稿ではすべて文字毎に声調を附し、連続表記はしていない。

『傾城之恋』について

I 動詞

頁-行	下線の語彙—上海語の動詞等 ローマ字—上海語の発音	説明 (文章の翻訳)、(共通語)
152 頁-3 行 (以下「152-3」 と略す)	胡琴伊伊啞啞拉着, 在万盞灯的 夜晚, 拉过来又拉过去, 说不尽 的苍凉的故事—— 拉(là)	(胡弓をギーギーと音を立て、万盞燈のネオ ンの夜に、何度も何度も弾いていると、語り尽せな い寂しい物語を語っているようだ。) 拉：弦楽器を弾く。《拉过来又拉过去 làgūlāeyóelàgūqī》は方向補語を附加した用 法。動作の繰り返しを表す。 拉过来又拉过去＝拉了又拉

152-4	胡琴上的故事是应当由光艳的伶人来 <u>搬演</u> 的。 搬演 (bāeyí)	(胡弓で語られている物語は艶やかな役者によって演じてもらうべきだ。) 搬演：～の役を演じる。この場合の「搬 bēu」は「bāe」と発音される。搬演＝扮演
152-6、7	按照从前的规矩，晚上绝对不作 <u>兴</u> 出去拜客。 作兴 (zokxīn)	(昔のしきたりによれば、夜は決して外に出て客に挨拶をすることは許されなかった。) 作兴：許すことができる。不作兴＝不允許
152-10、11	四爷在洋台上，暗处看亮处，分外眼明，只见门一开，三爷穿着汗衫短裤， <u>揸</u> 开两脚站在门槛上，…… 揸 (cak)	(四爷 ³ は、ベランダに居て、暗いところから明るいところを見ると格別にはっきりと見える。門が開くと、三爷 ⁴ が T シャツと半ズボンを着て、両足を広げて敷居に立っているのが見えた。…) 揸：(両足を)広げる。この場合の「揸 zò」は「cak」と発音される。揸开 (cakkàe) は方向補語を附加した用法。揸开＝叉开
152-16 153-1、2	四爷道：“他们莫非是要六妹去 <u>奔丧</u> ？”三爷用扇子柄 <u>刮</u> 了刮头皮道：“照说呢，倒也是应该……”他们同时看了六妹一眼。 奔丧 (bēnsàn) 刮 (guak)	(四爷は「ひょっとすると、彼らは六妹 ⁵ に元夫の喪に駆けつけて欲しいというのではなからうか」と言った。三爷は扇子の柄でちよつと頭皮を搔いて、「道理から言えばそれも当然だけど……」と言った。彼らは同時に六妹をちらっと見た。) 奔丧：身内の人の喪に駆けつける。奔丧＝吊喪 刮：搔く。「刮了刮」は、動詞の重ね型の用法。刮了刮＝搔了搔
155-9	白老太太道：“我这就起来。你把灯 <u>捻</u> 开。” 捻 (ni)	(白老太太 ⁶ は、「すぐ起きるから。電灯をつけてください」と言った。) 捻：捻る；つける。《捻开 nikàe》は方向補語を附加した用法。捻开＝开开
155-11～13	白老太太咳了一声道：“宝络这孩子今年也二十四了，真是我心上的一块疙瘩。白替她操了心，还让人家说我：她不是我亲生的，我存心 <u>耽搁</u> 了她！” 耽搁 (dàegok)	(白老太太は一つ咳をして、「宝络という子は今年もう 24 才になり、本当に悩みのたねだわ。彼女に余計な心配をしたが、それでも人様に、あの子は私が産んだ子ではないので、わざと支障をきたしたと言われている」と言った。) 耽搁：支障をきたす。 耽搁＝耽误 《存心 zhénxìn》：わざと。存心＝故意
155-13	四奶奶把老太太 <u>搀</u> 到外房去，…… 搀 (càe)	(四奶奶 ⁷ はおばあさんに手をかして外の部屋へ連れて行った。…) 搀：手をかす。搀＝扶

3 「四爷」は主人公である白流蘇の 4 番目の兄。

4 「三爷」は主人公である白流蘇の 3 番目の兄。

5 「六妹」は主人公である白流蘇を指す。

6 「白老太太」は主人公である白流蘇の母親。

7 「四奶奶」は「四爷」の妻であり、白流蘇の四番目の兄嫁。

155-17	四奶奶一个人在外间屋里翻箱倒柜找寻老太太的私房茶叶，…… 翻箱倒柜(fàxiāndǎoguái)	(四奶奶は一人で外の部屋で箱をひっくり返して徹底的におばあさんの大事にしまっていたお茶の葉を探していた。…) 翻箱倒柜:箱をひっくり返して徹底的に探すこと。 翻箱倒柜=翻箱倒篋
156-3	四奶奶格格笑道：“……我是有点人心的，就得顾着他们一点，不能靠定了人家，把人家拖穷了。我还有三分廉耻呢！” 拖穷(tuōqióng)	(四奶奶はけらけら笑って、「…私は少し良心があるので、家族のことを気にかけてなければならない。他人に頼りきって、連累して貧乏させてはならない。私だってそれでも幾分の廉潔で恥を知る心もっているわ」と言った。) 拖穷:連累して貧乏させること。拖穷=拖累
156-5、6	白流苏在她母亲床前凄凄凉凉跪着，听见了这话，把手里的绣花鞋帮子紧紧按在心口上，戳在鞋上的一枚针，扎了手也不觉得疼，小声道：这屋子里可住不得了！……住不得了！ 戳(cōu)	(白流蘇は母親のベッドの前でとても痛ましく跪いたままにしている、このような話を聞いたら、手に持っていて、刺繍している靴の両側のものをしっかりと胸に押さえ、手が靴に挿してある針に刺されても痛く感じず、もうこの家には住めない…もう住めないんだとつぶやいた。) 戳:刺す。戳=扎
156-16、17	流苏撑着床勉强站了起来，道：“婶子，我……我在这儿再也待不下去了。……” 撑(chēng)	(流蘇はベッドを支えてやっとのところで立ち上がって、「おばさん、私…私はここでもうこれ以上居ることができません。…」と云った。 撑:～を支える。撑=支撑
156-18、19	徐太太扯她在床沿上一同坐下，悄悄的道：“你也太老实了，不怪人家欺负你。你哥哥们把你的钱盘来盘去都盘光了，就养活你一辈子也是应该的。” 盘(pán)	(徐太太 ⁸ は、彼女を引っ張って、一緒にベッドのふちに座って、小声で「あなたはおとなしすぎるのよ。とかく人にいじめられるのも無理はないね。お兄さん達はあなたのお金をあちらこちらに運用して、すべて使い果たしてしまった。たとえあなたを一生養っても当然のことだわ」と云った。) 盘:運用する。《盘来盘去 bhéuláebhéuqǐ》は方向補語を附加した用法であり、動作の繰り返しを表す。盘来盘去=用來用去 《盘光 bhéuguàn》は結果補語を附加した用法。 盘光=用光
158-3、4	……玻璃罩子里，搁着珐蓝自鸣钟，机括早坏了，停了多年。 搁(gē)	(…ガラスケースの中には藍色の琺瑯の時報時計が置かれており、時計のケースがとくに壊れていて、何年も動いていなかった。) 搁:置く。搁着=放着 《机括 jīkuò》:時計のケース。 この場合の「括 guò」は「 [^] kok」と発音される。
159-9~10	……徐太太告诉他们，范柳原从英国回来的时候，无数的太太们	(…徐太太は彼らに、范柳原は英国から帰国した時、数え切れないほどの奥様たちが青筋を立て

8 「徐太太」は白流蘇の元夫の親戚にあたる。

	急扯白脸的把女儿送上门来，硬要 <u>扭</u> 给他，勾心斗角，各显神通，大大热闹过一番。 扭 (ò)	て自分の娘を差し出して、無理やり押し付けようと、互いに秘策を戦わせ、おのおのの特徴を發揮し、大いに賑わったと言った。) 扭: 無理やり押し付ける。「扭给」は結果補語を附加した用法。扭给=硬塞给
160-4、5	四奶奶悄悄扯了她一把，正言厉色的道：“三嫂，你别那么糊涂！你护着七丫头，她是白家什么人？ <u>隔</u> 了一层娘肚皮，就差远了。” 隔 (gāk)	(四奶奶はこっそりと彼女をぐいっと引っ張って、厳しい顔つきで、「三嫂 ⁹ 、こんな馬鹿なことをしないでね。七丫头 ¹⁰ をかばうなんて、あの子は白家のどんな人なの？母親が違うと、全然違うわよ」と言った。) 隔: 隔てる。《隔了一层娘肚皮 gākleyik zhén niándhúbhí》は、母親が違うと意味する。
160-12、13	白老太太将全家的金珠细软，尽情搜括出来，能够放在宝络身上的都放在宝络身上。 搜括 (sòeguok)	(白老太太は家にある金目のものをなるべく探し出して、宝絡に使ってもらえるものは全部出してもらっていた。) 搜括: 探し出す。《搜括出来 sòeguokcaklái》は方向補語を附加した用法。搜括出来=找出来
161-2、3	宝络沉着脸走到老太太房里，一阵风把所有的插戴全 <u>剥</u> 了下来，还了老太太，一言不发回房去了。 剥 (bok)	(宝絡はふくれっ面をしておばあさんの部屋に入って、一陣の風のようにすべてのアクセサリを外して義母に返して、一言も話さずに部屋に戻って行った。) 剥: 外す。《剥下来 bokhhólái》は方向補語を附加した用法。剥下来=拿下来
161-10、11	他要把人家 <u>搁</u> 个两三个钟头，脸上出了油，胭脂花粉褪了色，他可以看得亲切些。 搁 (gok)	(彼は相手を2、3時間もほったらかして、顔の油を出させて、ファンデーションの色を褪せさせてから、はっきりと顔が見えるようにしたかった。) 搁: ほったらかす。搁=放
161-18、19	金枝金蝉还要打听此后的发展，三奶奶给四奶奶几次一 <u>打岔</u> ，兴致索然。 打岔 (dāncò)	(金枝と金蝉 ¹¹ はまだその後の行方を聞きたかったが、三奶奶が四奶奶に何回も口出しをされたため、興ざめしてしまった。) 打岔: 口出しする。打岔=插嘴
161-8~10	四奶奶又向那边喃喃骂道：“猪油迷了心！你若是以为你破坏了你妹子的事，你就有指望了，我叫你早早的 <u>歇</u> 了这个念头！……” 歇 (xik)	(四奶奶はまた向こうの方へ小声で、「欲に心が惑わされたよね。妹のことを打ち壊せば、自分の願いが叶えられると思うならば、早く諦めてください」と罵った。) 歇: 諦める。歇念头=断念头 《猪油迷了心 ziyóemílekxin》は、欲などにより、心が惑わされて、現実が見えなくなることを指す。

⁹ 「三嫂」は「三爷」の妻であり、白流蘇の三番目の兄嫁。

¹⁰ 「七丫头」は白流蘇の七番目の妹。

¹¹ 金枝と金蝉は「四爷」と「四奶奶」の二人の娘。

Ⅱ 動詞以外の品詞

153-9	三爷道：“……他家是个大族，就是 <u>拨</u> 你看守祠堂，也饿不死你母子。” 拨 (bak)	(三爷は、「…彼の家は名門であり、譬えお前に祖廟の守役をさせても、あなた達母子を飢え死にさせることはないであろう」と言った。 拨：～にしてあげる。前置詞の用法。 拨＝給
158-5	在微风里，一个个的字都像浮在半空里，离着纸 <u>老远</u> 。 老远(láoyhuéu)	(そよ風の中で、一つ一つの文字がどれも空中に浮いていて、紙に遠く離れているようであった。) 老远：とても遠い。「老」は副詞の用法。 老远＝很远
160-11	为了宝络这 <u>头</u> 亲，却忙得鸦飞雀乱，人仰马翻。 头(dhóe)	(宝絡の今回の婚姻のため、ひっくりかえったように忙しくて、散々だった。) 头：婚姻を数える助数詞。头＝門
161-2、3	四奶奶索性冲着流苏的房间嚷道：“……又不是千年万代没见过男子汉，怎么一闻见生人气，就 <u>痰迷心窍</u> ，发了疯了？” 痰迷心窍(dháemíxinqiāo)	(四奶奶はいつそのこと、流蘇の部屋に向かってぶつぶつと、「…今まで一度も男に会ったことがなかったのではないのに、どうして男の気配を感じたら、すぐ魔がさしていたようで、気違いになるのかしら？」と言った。 痰迷心窍：魔がさす。痰迷心窍＝鬼迷心窍
162-2、3	三奶奶道：“我哪儿知道？ <u>统共</u> 没听见他说过三句话。” 统共(tōn ghón)	(三奶奶は「どうして私が分かるの？彼の言葉を全部にしても三つしか聞いたことがない」と言った。) 统共：全部(にして)、副詞の用法。统共＝一共
163-2、3	蚊香的烟 <u>一蓬一蓬</u> 浮上来，直薰到她脑子里去。她的眼睛里，眼泪闪着光。 一蓬一蓬(yìkphón yìkphón)	(蚊取線香の煙りが一筋また一筋と上がってきて、ひたすら彼女の頭を燻っていた。彼女の目には涙で光っている。) 蓬：動量詞で、煙り一筋と意味する。 一蓬一蓬＝一股一股

【参考資料】

- 榎本英雄／范晓 著『エクスプレス上海語』(白水社)1996年4月5日第6刷
 阮恒輝 著『上海話教程』上海辞書出版社、2014年8月
 錢乃栄 編著『上海話大詞典』上海辞書出版社、2008年4月第5版
 丁迪蒙 著『学説上海話』上海科技文献出版社、2015年1月第2版
 宮田一郎 編著『上海語常用同音字典』光生館出版、昭和63年9月10日初版発行

【参考文献】

- 張惠苑 編集『張愛玲年譜』天津人民出版社、2014年1月
 余斌 著『張愛玲伝』広西師範大学出版社、2001年12月第2版
 「張愛玲作品」
 『伝奇増訂本』上海・中国図書雑誌公司出版、民国35年(1946年)11月増訂本初版